

二月三日(金曜日)午後三時より

節分念法要

おでかけください

本年の節分会は、二月三日(金曜日)午後三時より、常楽寺本堂で厳修いたします。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

厄年表

厄除の生まれ年	
男子	4歳 平成26年生 25歳 平成5年生 42歳 昭和51年生 61歳 昭和32年生
女子	4歳 平成26年生 19歳 平成11年生 33歳 昭和60年生 37歳 昭和56年生 61歳 昭和32年生

厄年は「数え年」で計算します。
厄年は、数え年での年齢が本厄で、その前後、1年づつが、前厄と後厄となります。

やがて「ホーマ」の儀式が中国に伝わると、

古いインドの言葉である「ホーマ」は、中国の発音に当てはまる音を写した当て字「護摩」という二字の漢字で表されるのが一般的になりました。そして「護摩の儀式」は、仏教の勉強のために中国に渡った、弘法大師様に伝えられて、日本に渡りました。

弘法大師様は、真言宗の重要な祈りの作法としての「護摩法要」を日本に伝え広められ、今日のさまざまな「護摩法要」を確立されました。

護摩の儀式でお坊さんは、燃え盛る炎の中に仏様を招き、いろいろなお供物を捧げて「おもてなし」をする「じゆ」によって、たくさんの人々の願いや、願望を聞き届けていただくのです。

また、護摩で焚かれる清らかな炎には、私たちの心を活している煩惱を、焼き尽くす働きがあることも忘れてはなりません。

新年の初護摩法要でも

節分会での護摩法要でも、

炎の力を借りての法要を行います。

炎は、私たちの生活を支え暮らしを、豊かにして

てきました。例えば、電気のなかった時代には、

闇夜を照らす灯火となって人々の命を守り、炎が

家族の温かい食事や団欒を支えました。

しかし、炎は時には、取り返しのつかない

事態を引き起こすこともあります。

大昔から人々は、このような燃え盛る炎に

おのすと畏敬の念を抱くとともに、炎に宿る

力を、祈りの儀式に用いるようになってきま

した。

仏教が誕生したインドでは、炎の中へ供物

を捧げる「ホーマ」という儀式が古くから行

われていました。仏教はこの伝統的なインド

の祈りの儀式を取り入れて発展させたのです

真言宗のお坊さんたちは、今なお、インド伝来

の祈りの儀式を受け継ぎ、お一人おひとりの希望

や、願いを、護摩の法要を通して仏様に届け、解

決していただくのです。

皆様も是非、護摩法要に参加されて、護摩の清

純な炎をあび、煩惱や穢れのすべてを焼き尽くし

て、新しい心と体となって、明日へ新たな暮らし

を歩まれると、気分一新した日々を送れるのでは

ないでしょう。

節分札 1,000円

節分厄除け護摩札升付 五,000円

升無し 三,000円

FAX 0276-1311-0161

電話 0276-1311-0001

☆ 節分札 厄除け護摩札のご希望は、地区の役員さんか、寺にお申込みください。

